



### 「いのち・いじめについて考える週間」の取り組み ③

「校長室だより」7号、25号でお伝えしました通り、本校では、「いのち・いじめについて考える週間」を学期に1度設定し、全校朝会での校長講話や各学級での指導を通して、子どもたちや教職員の「いじめ防止」の意識を高め、「いじめは絶対に許されない行為であること」を学校全体で再認識する機会としています。また、「いじめ防止基本方針」のもと、定期的に学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見や実態把握に努めています。



3学期の「いのち・いじめについて考える週間」の初日、2月2日の全校朝会では、子どもたちが、いじめは「どんなことがあっても、してはいけないこと」と知るだけでなく、「自分ならどうするか」「友だちの立場に立って考えるとどういうことか」を、一人一人が真剣に考える態度を育てたいと考え、話をしました。

今週は、3学期の「いのち・いじめについて考える週間」です。今日は、ある小学校の4年生が書いた、いじめについての作文を紹介します。

「クラスが変わってから、わたしはなかなか友だちの輪に入れず、休み時間は一人で本を読んで過ごしていました。そんなある日から、『また一人?』『暗いね』と言われるようになりました。はじめは聞こえないふりをしていましたが、だんだん言葉ははっきりし、道をふさがれたり、給食で『となり、いやや』と言われたりしました。『冗談やん』『遊びやって』と言われるたびに、こわくて何も言えませんでした。家に帰っても誰にも言えず、『わたしが気にしすぎなんかな』と考えながら、学校へ行くのがしんどくなっていきました。

そんなある日の給食の時間、席を立たされそうになったとき、クラスのあいさんが『そこ、れいな  
の席やで』『いっしょに食べよ』と声をかけてくれました。あとであいさんは、『ずっと気になってた。でも、言うのがこわかった』と話してくれました。

放課後、あいさんと一緒に先生に相談しました。先生は話を最後まで聞き、クラスの様子を見直してくれました。すぐに全部がよくなったわけではありませんが、一人でいることは少なくなりました。

今、思うことがあります。気づいてくれる人が一人いるだけで、気持ちは少し軽くなるということです。もしクラスに困っている人がいたら、見て見ぬふりをせず、声をかけたいです。あのときの、あいさんのように。」

野田小学校のみなさんには、いじめをなくすために「**2つの勇気**」を大切にしてほしいと思います。1つは、いじめに「**ストップをかける勇気**」。もう一つは、つらいときや友だちが困っているときに「**相談する勇気**」です。一人一人が「**いじめをぜったいに許さない**」という気持ちを持ち、みんなが安心して過ごせる野田小学校を、力を合わせてつくっていきましょう。

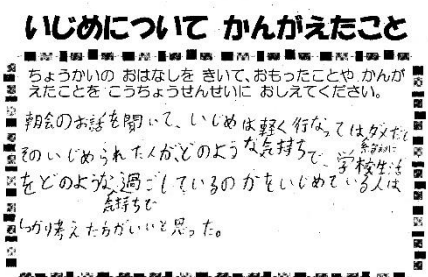
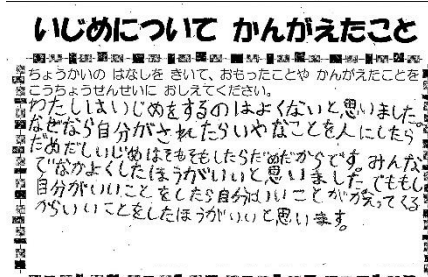
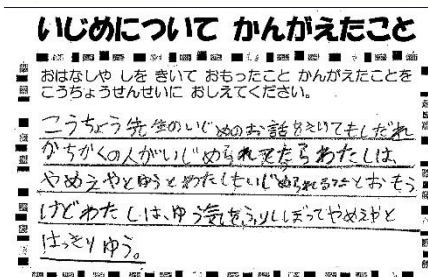
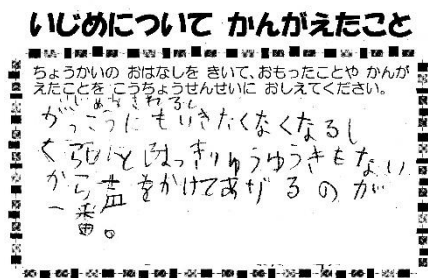
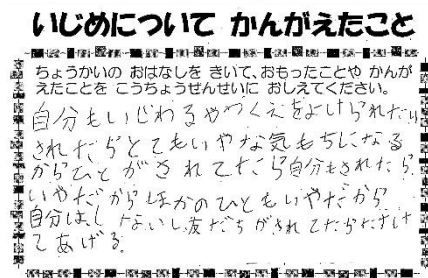
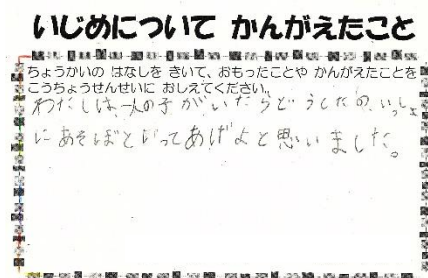
朝会の終わりに、「話を聞いて思ったことや、考えたことを聞かせてほしい」と呼びかけると、たくさん子どもたちが講話の感想を書き、校長室前のポストに投函しました。今回は、特に2年生の子どもたちから、多くの感想が届いていました。

朝会での講話を通して、子どもたちがどのようなことを感じ、考えたのか、いくつか紹介します。

(※裏面に続く)

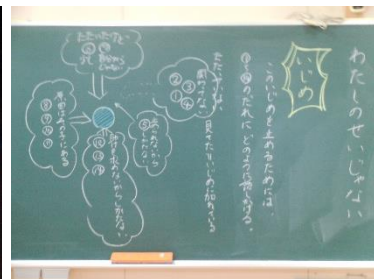
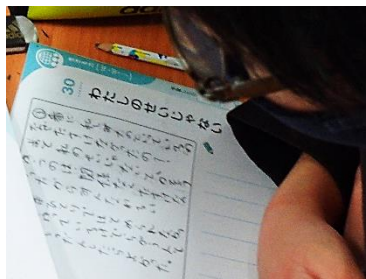
※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。

(※表面より)



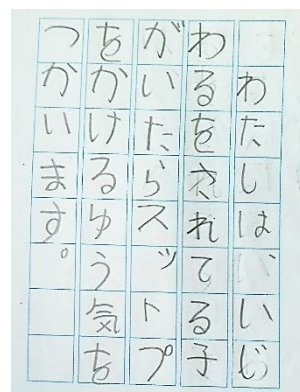
道徳や学級活動などの時間に、「いじめ」や「友達関係」についてみんなで考えたクラスもたくさんありました。

6年生の学級では、道徳教材「わたしのせいじゃない」を使った授業を行いました。「いじめのような場面を見たとき、自分はどんな気持ちになるのか」を問い、子どもたちは「見ていていやな気持ちになる」「人がいやなことをされていたら、なんとか止めたい」「止めたいけれど、動けないかも知れない」「いやなことがあったらその場から逃げたらよい」など、正直な思いを出し合いました。また、見ていだけで本当に関係がないのかについても、友だちの考えを聞きながら深く考える姿が見られました。自分の気持ちに目を向け、「自分にできること」を考えようとする姿が印象的でした。



1年生の学級では、道徳教材「やめろよ」を使った学習を行いました。学校の帰り道、「ぽんた」たちが友だちの「ぴょんこ」に意地悪をしている「こんきち」に出会います。注意したいと思いながらも迷いますが、泣いている「ぴょんこ」を見て、「ぽんた」は勇気を出して「やめろよ」と声をかけるといったお話です。授業では、「ぽんた」の気持ちについて、「どうして言えなかったのか」「『やめろよ』と言うとき、どんな気持ちだったのか」について話し合いました。子どもたちからは、「こわかったと思う」「ドキドキするけど、言つてよかった」「言えたらすっきりした」という意見が出ました。この学習を通して、子どもたちは、困っている人がいたときには、勇気を出して声をかけることの大切さを学びました。1年生なりに一生懸命考え、話し合ったこの時間が、これからの生活の中で、「ストップをかける勇気」につながっていくことを願っています。

本校では、いじめは「いつでも、どの子どもにも、どの学校においても起こりうる」という認識のもと、いじめの未然防止に力を入れて取り組んでいます。そして、他人の心の痛みが分かる子どもを育て、思いやりあふれる学校づくりを進めたいと考えています。しかしながら、いじめの実態は学校だけでは十分に把握しきれない場合もあり、ご家庭でのご協力が必要です。お子さまの様子で気になることやご心配なことがありましたら、いつでも学校にお知らせください。



※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。